

人権擁護のためのセルフチェックリストの集計結果（令和6年6月実施）

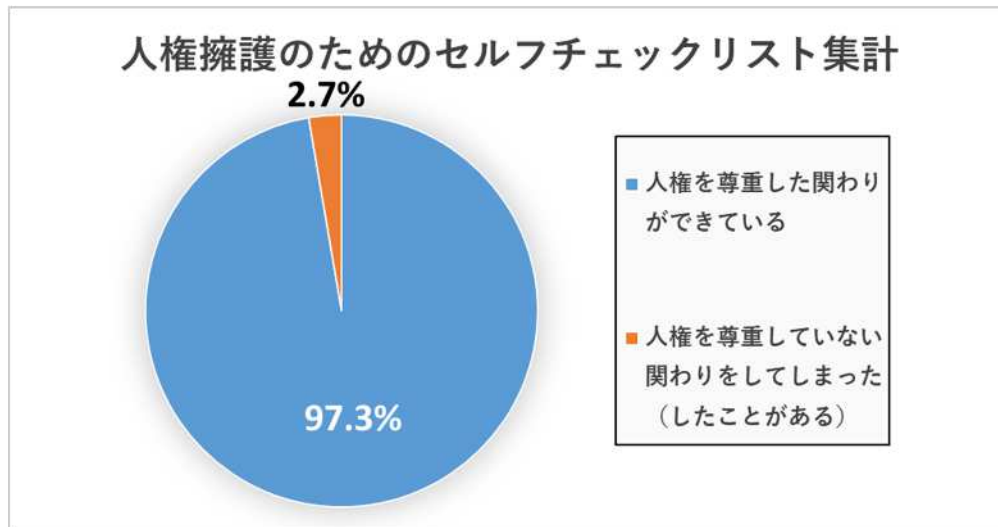
子どもの人権や子どもの人格尊重に対する意識啓発を図るため、全職員を対象に全国保育士会が作成した人権擁護のためのセルフチェックリストを活用し、日頃の保育の振り返りを行いました。

保 育 所 名	職員回答者数 (令和6年6月 実施分)	人権を尊重していない関わりをしてしまった回答割合		
		令和6年6月実施分	令和5年12月実施分	令和5年6月実施分
北 保 育 所	45	2.7%	4.4%	6.4%
東 保 育 所	55	2.4%	3.2%	5.9%
西 保 育 所	41	1.9%	1.9%	6.3%
中 央 保 育 所	45	2.5%	1.5%	2.6%
北 山 保 育 所	48	1.6%	1.4%	5.9%
住 吉 保 育 所	70	1.8%	2.6%	4.1%
小 柳 保 育 所	39	1.1%	3.0%	4.8%
八 幡 保 育 所	35	1.9%	1.5%	3.4%
本 町 保 育 所	46	1.9%	2.5%	4.1%
三 本 木 保 育 所	64	0.5%	2.4%	3.5%
美 好 保 育 所	43	1.0%	1.8%	3.5%
合 計	531	1.7%	2.4%	4.6%

※今回のアンケートに対する回答は、令和5年12月に回答したセルフチェックリスト以降に該当する内容について回答したものです。

北保育所

人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 97.3%が望ましい対応をしていることが分かりました。2.7%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。

外で寝るように言うことはありません。布団を敷く場所に関しては、睡眠が必要な子の保障をするため、布団の並びを入れ替えたりすることがあります。午睡は休息の時間でもあり、眠れなくても身体を休める時間として捉えているため、環境設定として気持ちが落ち着けるよう、クラスの様子に合わせて工夫をしています。引き続き一人ひとりの子どもに合わせた対応を心がけていきます。

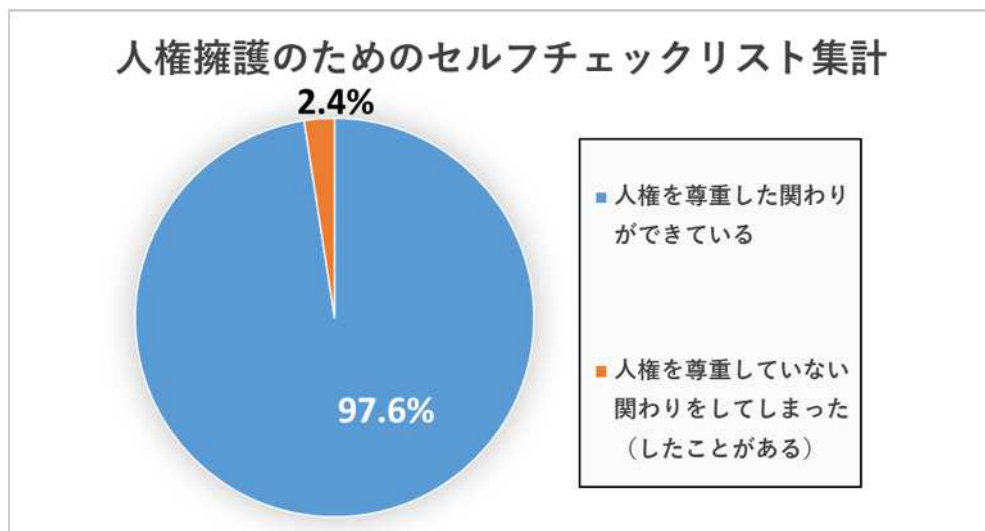
少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

子どもの好みを把握した上で、子どもと相談しながら、その子に合わせた量を盛りつけていくことを確認しました。苦手なものがお皿にのることで、食べる意欲がなくなってしまう子もいるため、どの子にとっても安心して食事ができるよう、一人ひとりの意思を尊重し、楽しい食事となるよう配慮していきます。

寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

一人ひとりの睡眠リズムや、心地よい距離感を把握した上でそばについています。大人がそばにつくことで安心して寝る気持ちになれる子や、一人で眠りたい子等、好みはそれぞれなので、子どもの思いに寄り添う形で午睡時間を過ごしています。午睡時に限らず、どの子も心地よく過ごせるよう配慮して保育することを話し合いました。

東保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 97.6%が望ましい対応をしていることが分かりました。2.4%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

子どもが保育士に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、他の子の対応などが重なった時に「今〇〇だから待っててね。」と伝える状況があります。「〇〇が終わったら聞かね。」と年齢に合わせて具体的に伝えると共に、子どもの話を聞く姿勢が大切であることを職員間で確認しました。

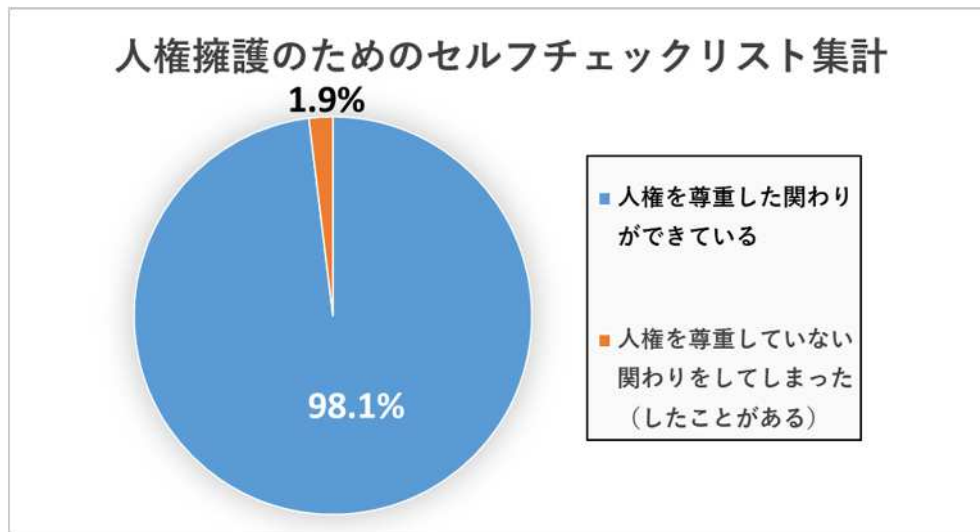
集団行動をするための言葉かけをした際、言葉かけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、命令するような口調や否定的な言葉かけではなく、「〇〇したら〇〇しようね」と次への期待が持てるような言葉で伝えることを改めて職員間で話し合いました。また、地震発生時や園外活動、プールなど危険を伴う場面では端的に伝える必要があるので、明確な表現で伝えると共に日頃から職員が子どもを守りながら子ども自身の危険回避の力を育てることの大切さを確認しました。

寝かしつける際に、いつも同じ子のそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、クラス全体が休息をする環境を整えるためにそばにつくことがあります。午睡時間は眠ることが目的ではなく、身体を休めることが大切であるということを職員間で話し合い共通理解を図りました。

西保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.9%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、どうしても手が離せない場合には、「～が終わったら聞くね」などと伝え、そのままにせず、その後に声をかけるようにしています。また、余裕がなくなった時に出やすい言葉であることを意識し、職員間で声をかけながら助け合う姿勢を大切にしていけることを確認しました。

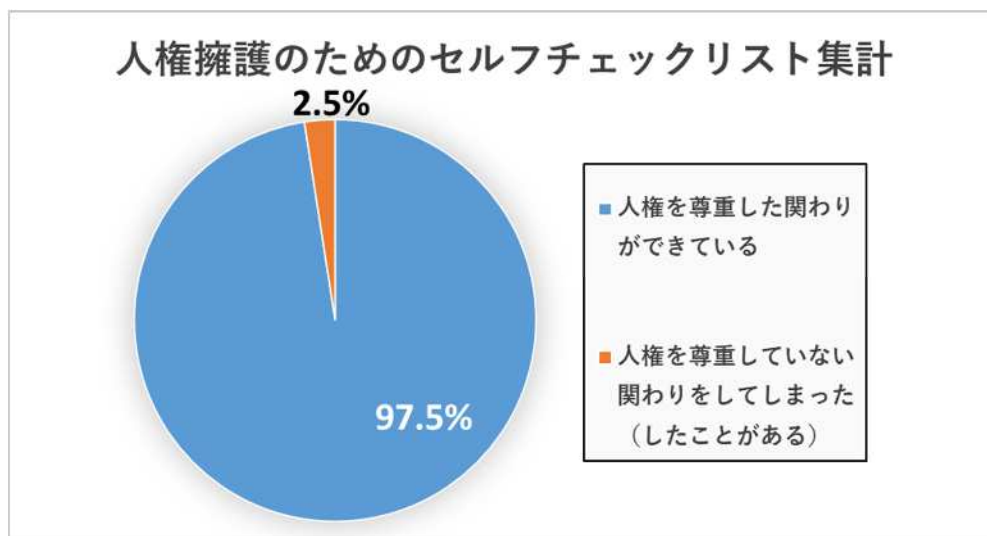
・自分からトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、日々の保育の中では、一人ひとりの子どもの排泄のタイミングをつかみ、必要に応じて見守りを行い、促すようにしています。その中で、プールや水遊びなど暑さ指数を見ながら、限られた時間で遊ぶ場合など、十分に遊べる時間を保障したい時に声をかけることもありますが、子どもの意思を尊重し、やりとりをしながら促していくことが大切ではないかと話し合いました。

・小食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、一人ひとりの食事量は担当が把握しており、様々な職員が入る為、伝え合うようにしています。その際、大盛り、普通盛り、少量など、抽象的な表現で伝えているので、職員により量の違いがあるのではないかと意見が出ました。引き続き、集団での良さを活かし、食に興味を持てるようなアプローチを考えながら、楽しい雰囲気の中で食事ができるよう、子どもたちとやりとりをしながら見守りや声掛けをしていくことを確認しました。

中央保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和 6 年度 6 月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 97.5%が望ましい対応をしていることが分かりました。2.5%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、心地よく午睡時間に休息できる環境や援助は、子どもによって異なると考えています。また、乳児期は、ある程度特定の援助者がそばにいることが安心感につながることもあります。どの子ども安心して午睡時間に休息できるように、スキンシップや言葉かけ、アイコンタクトなどをして援助ができるようにしていきます。

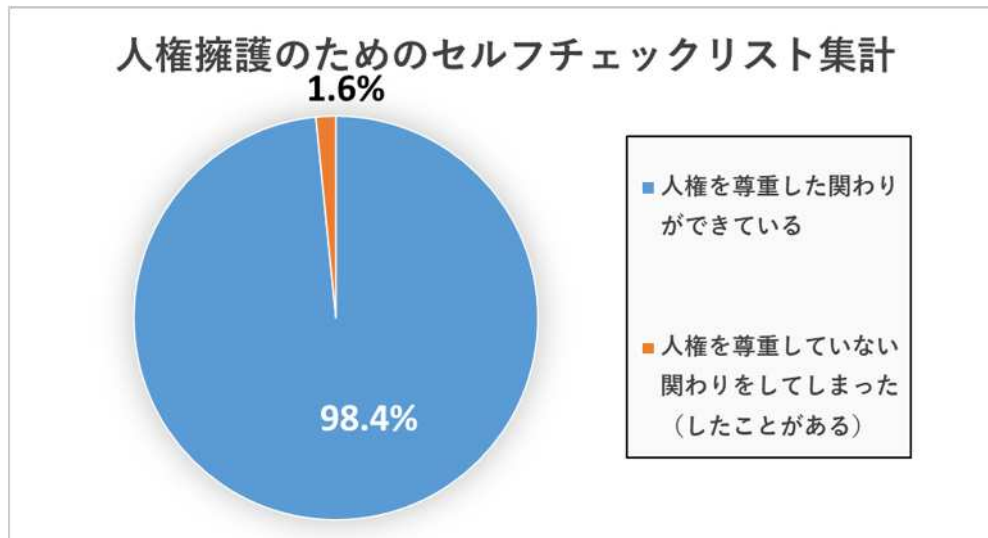
・小食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、前回の振り返りを踏まえ、また感染症対策の緩和に伴い、幼児クラスでは、子どもが自ら食べる量を選べるような配膳・食事の提供を行ってきました。乳児クラスでも簡単なやりとりができる頃には「どっちがいい？」と配膳量を変えたものを提示し、選択できるようにしています。みんなで食べるという集団生活ならではの刺激や、食育活動の良さを大切にしながら、引き続き食の楽しさを経験できるようにしていきます。

・子どもが話しかけた際に、「今忙しいから後にして」と言う

上記の項目につきましては、日々、子どもたちへの応答的な関わりが大切であるという職員共通認識でした。多くのお子さんをお預かりし、援助する中では、タイムリーに答えてあげられない時もあります。その際には、設問のような言葉かけではなく、理由や見通しが持てる言葉かけを子どもたちに伝えています。また早急に援助が必要な場合には、職員間で声を掛け合うことで、タイムリーに援助ができるようにしていきます。

北山保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和 6 年度 6 月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.4%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.6%の望ましくない対応は主に次の 3 項目に見られました。

- ・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

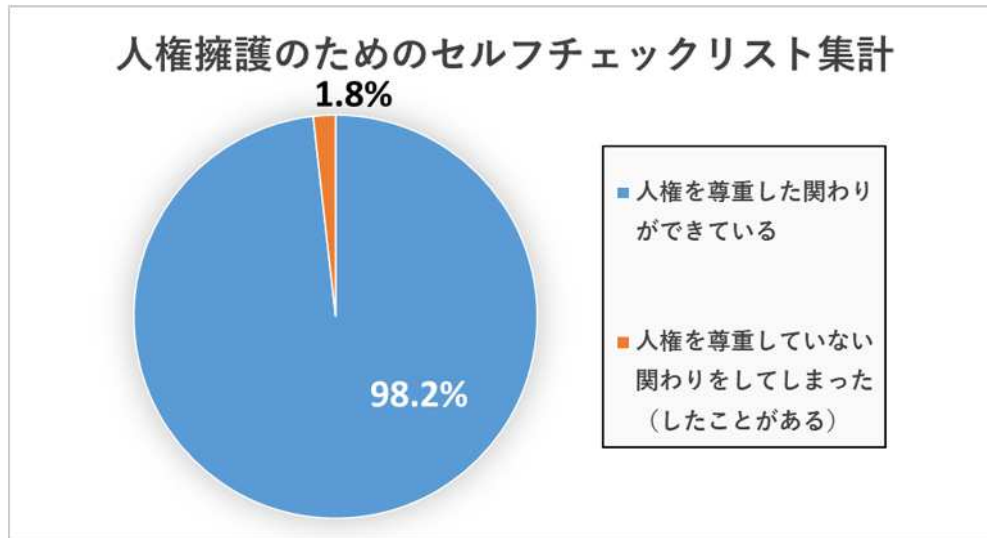
上記の項目につきましては、年齢によって対応は異なる面もある、おむつからの移行期であればトイレに慣れるなどの意味合いで声掛けすることもある、などの意見もありました。また、散歩や午睡前など場面によって声掛けが多くなることもあるが、普段の生活の中ではできるだけ個々の意思を尊重するようにしているなど、配慮点について職員間で意見交換・共有しました。

- ・寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。
- ・寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、外で寝るように言うなどの対応はしていませんが、個々の睡眠の保障のために落ち着いて寝られるような介助の仕方や、足が当たるなどトラブル回避のために布団をずらすなど対応することはありますが、眠くない子に無理やり寝かそうとするのではなく、体を休めるよう話している。眠くない子に一定時間静かにさせなくてはならない環境がどうなのか、などの課題も共有し、今後も生活時間の見直しなど検討を続けていきます。

その他にも、セルフチェックを続けることで、職員間で話題にしたり改善点を共有することができていると感じています。上記に挙げた点以外でも一人一人が意識し、気づきはその都度共有・改善できる関係を深めていきます。

住吉保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.2%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.8%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、やはり直ぐにトイレへ行かれない散歩やプールの前など、活動の内容を考えるとトイレを促してしまいます。子どもたちへ理由を伝え、強制ではなく、子どもの気持ちを尊重していくことを再度共有しました。また、乳時期の子どもたちはトイレへ行くタイミングが一人ひとり異なり、担当が個々の排尿感覚を概ね把握しているため、様子を見ながら子どもたちに寄り添った声かけを心掛けることを確認しました。

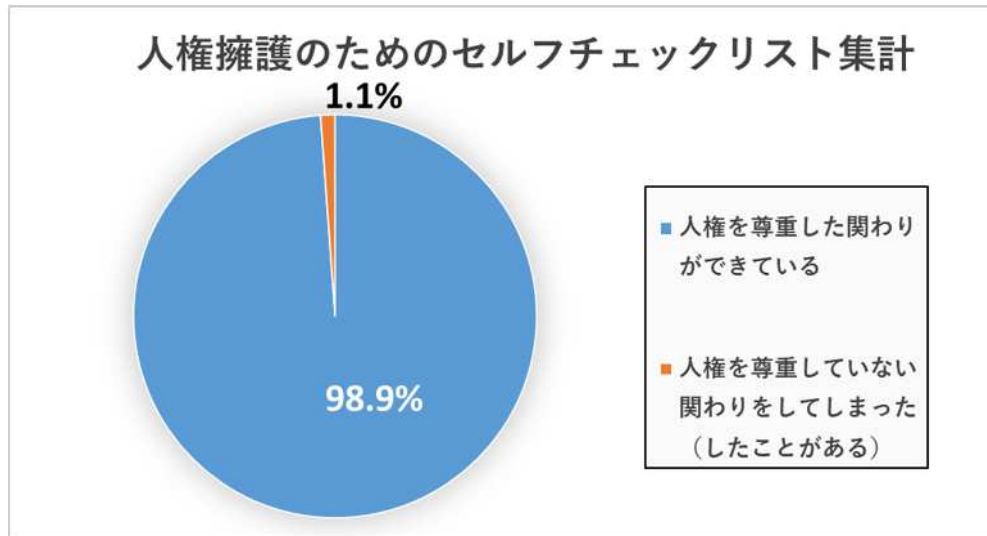
・集団行動をするための言葉かけをした際、言葉かけを聞かない子どもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、強制するような言い方や、子どもたちのやる気が損なわれてしまうような言葉ではなく、子どもたちが「次はどんな楽しいことがあるのかな～」など、活動に期待が持てるような伝え方をしたり、切り替えの少し前に一度声掛けをすることで、子どもも見通しをもって活動でき、お互いにスムーズに行動ができるのではないかと共有しました。

・少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、少食なお子さんは、定量でも多いと感じて食べる意欲を失うことがあります。みんなが同じ量ではなく、自分で量が決められるようなやり取りが大切だと確認しました。自分で決め、食べきれた時の達成感や満足感にもつながっていきたいと共有しました。

小柳保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.9%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.1%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」という。

上記の項目につきましては、まずは子どもの声に耳を傾ける事を基本とし、内容の緊急性によっては保育者の状況を伝える事が大切であることを確認しました。待たせる事になってしまう場合には必ず後で話を聴くことを子どもに伝えていくことが信頼関係の構築に繋がることを職員間で確認しました。

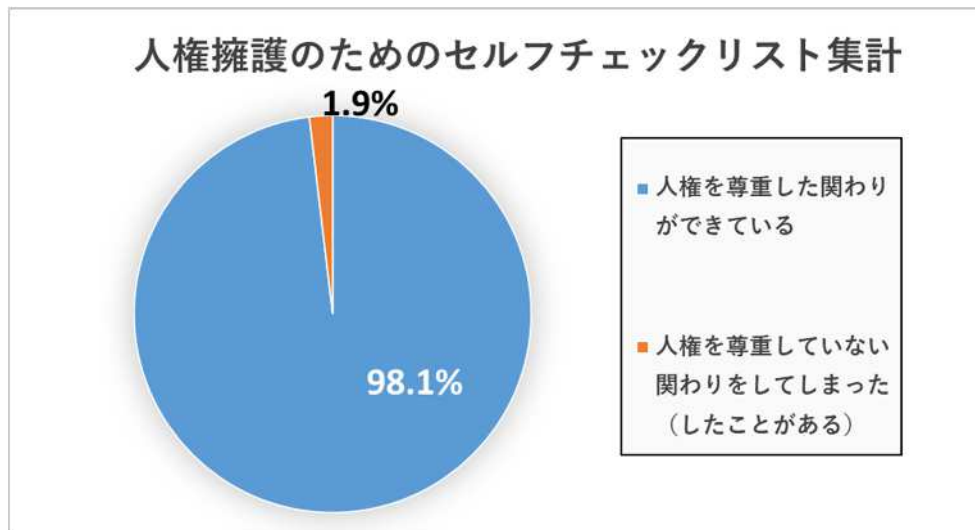
・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、子どもの思いを尊重していくことを基本とした上で、保育者は個々の発達等に合わせた上で声かけを行うことが大切であることを確認しました。また散歩、遠足、プール、午睡前等の活動内容や状況によっては、一斉に排泄を促す場合があることを職員間で確認しました。

集団行動をするための言葉かけをした際、言葉かけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、否定する言葉かけではなく、「〇〇したら〇〇しようね」など、子どもたちが次への活動に期待が持てるような肯定的な言葉かけで伝えていくことが大切だと確認しました。しかし、危険を伴うような場合には否定的な言葉かけも必要であり、また社会のルール、約束事を伝える際にも、事実をしっかりと伝える言葉かけをすることもあるという確認をしました。どちらの対応を行っても、子どもの気持ちを傷つけるような言葉かけはしないことが大切であることを職員間で確認しました。

八幡保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.9%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、対応が重なった時に「〇〇だから待っててね」「〇〇の後でね」など言うことがあります。そのような場合でも、「今〇〇してるから終わったら聞かね」など具体的に説明すると共に、子どもの話に耳を傾け、子どもに合わせて丁寧な対応をしていくことが大切であることを職員間で確認しました。

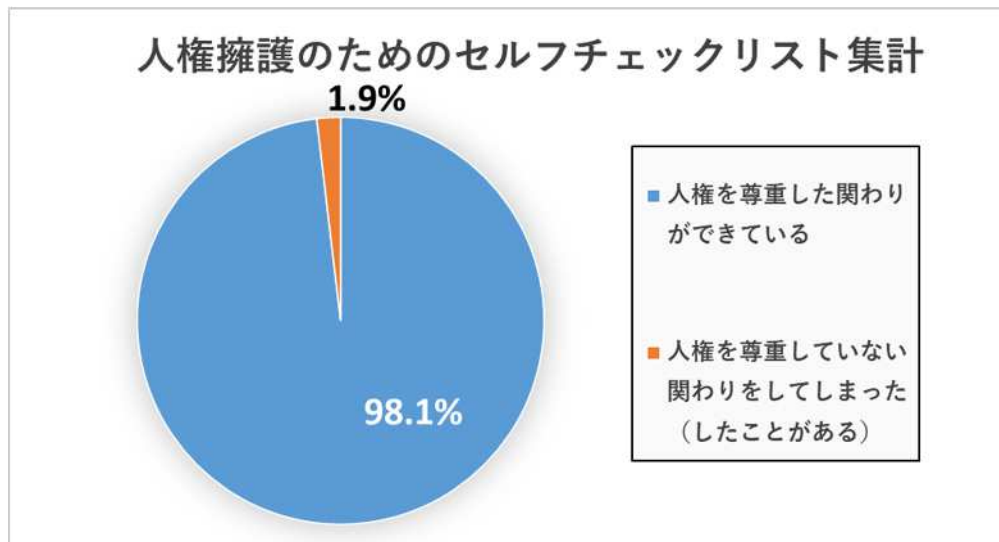
・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、散歩やプール前、戸外遊びなどすぐにトイレに行くことができない場面ではトイレを促すことがありますが、強制ではなく子どもたちにこの後の予定を伝え、子どもたちの気持ちを尊重していくことを確認しました。

・寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。

上記の項目につきましては、外で寝るように言うことはありません。しかし、保育所は長時間保育のため、体を休めることが必要なことを確認し、体を休め睡眠しやすいような環境を作ること、子どもへの声掛けをしていくことを確認しました。また、子どもの体力や生活リズムが異なるため、職員が子どもの状況を理解しながら対応していくことを確認しました。

本町保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和 6 年度 6 月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.9%の望ましくない対応は主に次の 3 項目に見られました。

・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、前回もパーセンテージが高く出ていました。日々の中でどうしてもすぐに子どもたちの話を聞くことができない場面は多々ありますが、その場合にどういう伝え方が子どもにとって最適なのか改めて意見交換しました。忙しい場面でもまずは手を止め、子どもたちの声にしっかり耳を傾け、それぞれの年齢に合わせた言葉で丁寧な対応を実践していくことを確認しました。

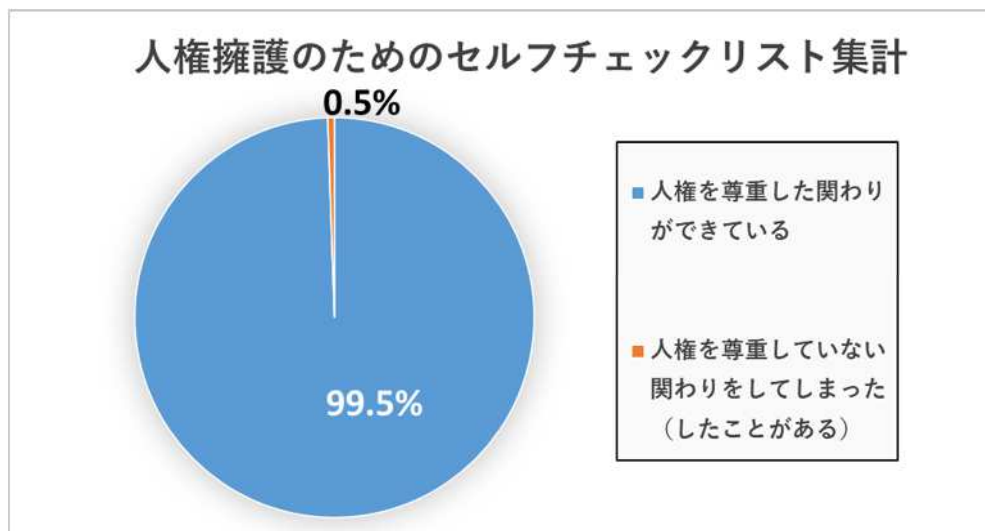
・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して「おしっこ出ない」と訴えていてもトイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、どうしても活動の前にはトイレに誘うことがあり、特に散歩や遠足など園外に出る際は行って欲しいという職員の思いが優先してしまうのではないかなどの意見がありました。活動の節目にはトイレに誘うことはあるが、基本的には本人の気持ちを優先すること、トイレに促す際も脅しになるような声かけや否定的な声かけにならないようにすることなどを実践し、子どもの自尊心傷つけず排泄できるようにすることを確認しました。

・寝かしつける際にいつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、どうしてもなかなか寝付けない子についてしまうことが多く、現状ではまんべんなく色々な子についてあげることが難しいとの意見が出されました。また、幼児の午睡については、寝る・寝ない、午睡時間など今後検討すべき点が多々あり、今回のこの項目をきっかけに、さらに午睡について考えていくことを確認しました。今後継続して検討していきたいと思います。

三本木保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 99.5%が望ましい対応をしていることが分かりました。0.5%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る。

上記の項目につきましては、時間に追われてしまうと、子どもを急がせてしまうことがあるということなど、職員間で意見を交わしました。常に子どもの気持ちを大切にしていれば、このような行動になることはないを確認し、『待つ』ことの大切さを忘れないように意識していくことを確認しました。

集団行動をするための言葉かけをした際、言葉かけを聞かない子どもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、肯定的な言葉かけを心がけていくことを確認しました。肯定的な言葉かけは、職員の語彙力が大切になってくるので、子どもに伝えたいことを、肯定的な言葉に言い換える表現方法を常に意識していくこと、学び続けることを確認しました。

子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

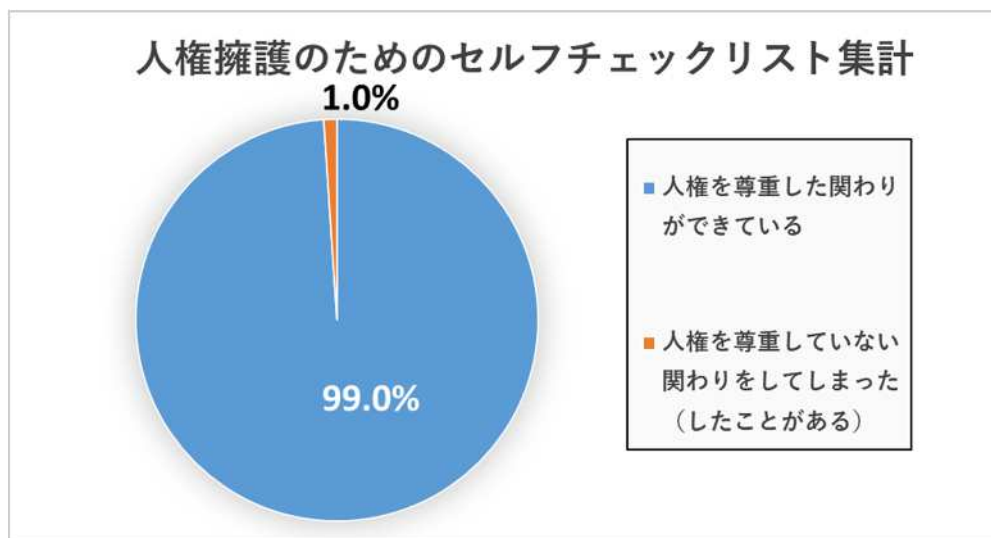
上記の項目につきましては、上記のような言い方ではないことは確認しつつ、子どもに「待っててね」と伝えることがあるということに関して、意見を交わしました。

子どもが話したい！伝えたい！という気持ちは「今」であるということも、しっかりと心にとめておくことを確認し、その時すぐに聴くことができなくても、必ず後で耳を傾ける時間をもつことを確認しました。

（その他）

人権擁護について大切にしていきたい関わりのスローガン「笑顔で挨拶を」、「子どもへは肯定的な言葉かけを」などを作成し、視覚化することで職員の意識向上に努めています。

美好保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 99.0%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.0%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、子どもが意思表示している気持ちを大切にしていますが、散歩やプールなど時間の予測が難しい活動に対しては、先の見通しとトイレに行ってほしい旨を伝えることがあると職員間で意見を交わしました。子どもから訴えがあった場合には気持ちを尊重するようにし、排せつの失敗があったときには子どもの気持ちに配慮し、丁寧に対応していく大切さを職員間で共有しました。

・いつまでも泣いている男の子に、「男の子だからいつまでも泣かない」や、乱暴な言葉使いをする女の子に「女の子だからそんな言葉を使ったらいけない」と注意する。

上記の項目につきましては、性別を理由に子どもの行動の是非を問うことはないものの、色や数、物の名称と同じように身近で聞きなじみのあることとして子どもに性別を質問することがあると職員の中で意見を交わしました。自然な会話の中から出てくる子どもの気持ちを大切に、保育者が性別を強調しないこと、固定観念にとらわれず柔軟な思考を持つようにしていくことを職員間で確認しました。

・寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、子どものその日の体調や生活リズムなどを考慮し個別配慮として行う現状があります。その日その時の個々の思いを尊重し、気持ちに寄り添いながら安心して生活できる環境を作るために、やり取りを重ねていくことが大切であると職員間で話し合いました。